

院内感染防止対策に対する一考察

—長野県院内感染防止実務者懇話会を開催して—

A study for control of hospital infection

—In organizing the meeting for medical staffs on the surveillance and control of hospital infection in Nagano prefecture—

信州大学医学部附属病院看護部感染対策委員会

柳原きよ江・小林 利江・加藤祐美子

〈要 旨〉

長野県内各施設の感染対策が統一される事を目的に4回の実務者懇話会を開催した。毎回、感染に関する講義、施設からの活動報告の発表、全体討議、グループワークを行い、各施設の状況を知る事や疑問点を解決する事ができた。代表者会議を開催し、懇話会の運営方法の検討を行い、継続して懇話会を開催していく事になった。

〈キーワード〉

感染防止 地域 アンケート

はじめに

平成11年12月地域医療機関看護管理者懇話会が信大病院で開催された。その会議の中で「院内感染予防について」県内の病院で統一した知識の基に感染対策がとれる事が要望事項としてあげられた。また、以前より転院の際には感染患者の取り扱いについて他施設との見解の違いを感じていた。そこで、県内各施設の感染対策を統一する目的で、各医療機関の実務者が集まり懇話会を4回開催したので報告する。

1. 実務者懇話会開催の経過

1) 第1回 平成12年6月3日(土) 13:30~16:00

参加施設 37 参加者 74名

信大病院 西村チエ子先生の講義 「感染対策の基本」

全体討議：事前アンケートを実施し、その内容を基に討議を行った。各施設の問題点など多数の意見が出された。

信大病院の病棟見学

2) 第2回 平成13年1月20日(土) 13:30~16:00

参加施設 40 参加人数 137名

4つのテーマでグループワーク：①MRSAについて ②感染教育について ③院内環境整備について ④針刺し事故対策について

全体討議

3) 第3回 平成13年6月9日(土) 13:30~16:00

参加施設 42 参加人数 96名

2施設（長野市民病院，諏訪中央病院）より感染予防活動の報告
最新情報の提供 信大病院 亀谷博美副婦長「尿留置カテーテル管理」
全体討議

信大病院の感染対策マニュアルを配布。

第3回までは、すべて信大病院で企画運営を行っていたが、各地区の代表で検討し運営していく事を提案し了承された。

4) 代表者会議 平成13年9月6日（木）15:00～17:00

北信地区 篠ノ井総合病院，東信地区 国保依田窪病院，中信地区 県立木曾病院，南信地区 昭和伊南病院及び信大病院の5施設の代表者が次回の懇話会の内容や運営方法について話し合いを持った。

5) 第4回 平成13年12月1日（土）13:30～16:00

参加施設 37 参加人数 75名

最新情報の提供 信大病院 山崎善隆先生「肺結核について」
2施設（篠ノ井総合病院，県立木曾病院）より肺結核の事例報告
全体討議（主に結核について）
グループワーク（各施設の問題点，マニュアルを徹底する方策など）
安全対応医療器材の展示，購入金額の表示および説明

2. アンケートの結果

アンケート結果（様式のちがいがあり1回目は省略，2回目は一部とした）

	第2回	第3回	第4回	第2回	第3回	第4回	
参加者				活動報告について			
看護職	94	46	72	参考になった	4	40	26
薬剤師	1	1	1		3	30	21
検査技師	1	1	2		2	3	2
その他	0	0	1	参考にならない	1	0	0
感染委員		42	52	懇話会について			
非感染委員		22	8	参考になった	4	44	29
参加回数					3	27	21
1回		44	20		2	2	0
2回		20	16	参考にならない		0	0
3回		10	7				
4回			7				

2) 懇話会に参加して参考になった事，積極的に取り組んだこと

〈第1回〉

・現在使われているマニュアルが考えが古いままで使用されているので会に参加して参考にな

った。

- ・他施設の現状や基準がわかった。
- ・「MRSA は接触感染である」ことを基準にしてマニュアルを見直していきたい
- ・必要以上に神経質になりスタッフに余分な精神的、物理的な負担をしてきた。感染の種類などで不要なことを削除しマニュアルを再検討していきたい
- ・改めて毎日の清掃が大切であることが MRSA の意見交換の中で感じた。

〈第2回〉

- ・MRSA のマニュアルを見直した
- ・病院全体の取り組みとして感染マニュアルを作成した
- ・過剰にやっていた MRSA 対策の見直しをしている
- ・講師を招いて講演会を開催し、また、感染対策について勉強会を開いた
- ・マットやスリッパの履き替えを廃止した
- ・看護部の感染対策委員会を立ち上げた

〈第3回〉

- ・毎月感染対策に関連したポスターを作成し、各病棟に配布、委員がスタッフに周知徹底していく
- ・手洗いの水道を蛇口に触れずに使用できるように改善した
- ・マニュアル作成、液体石鹸・ペーパータオル導入のための必要数調査
- ・日常業務の見直し

〈第4回〉

- ・マニュアルの見直し、勉強会、院内感染対策委員会の役割を再認識
- ・手洗いの大切さを勉強した。ペーパータオルの使用、病室毎に石鹸を設置するなど環境作りに取り組めた
- ・マニュアルの再検討、職員教育、手洗いポスター作り
- ・今までばらばらになっていたマニュアルを一冊にまとめ各職場に配置した
- ・年齢の高い医師、手洗いの徹底ができない
- ・それぞれの施設の取り組みは、医師の考えに大きく左右されるのでマニュアルを浸透させる努力が必要

3. 考 察

懇話会事前アンケートから各施設の問題点をまとめると、針刺し事故の防止対策、高齢者や慢性疾患患者の転入に伴い MRSA 保菌者が増加しベットコントロールが難しい、MRSA の消毒剤の使用や患者への対応方法、環境調査について、マニュアルが徹底されない、委員会が活動していないなどがあげられた。この内容をふまえ第1回の計画をたてた。

第1回は、はじめての開催であり「感染対策の基本」講演会後の全体会では日頃の疑問点など多くの意見が出され活発な討議がされた。MRSA についての質疑が多く、保菌者、感染者への対応や清掃について、学習方法について話し合われた。MRSA は接触感染であり職員の手洗いが重要である事を、講演を通し、また、グリッターバッグを使用しての手洗い実技から学んでもらった。一つ一

つに丁寧に答えてもらった事で、参加者は感染対策に自信を持つ事ができたと思う。

第2回は、テーマを決めグループワークを行った。具体的に問題点を話し合ったが、第1回の内容を把握していない参加者が多かったこと、人数が多く会場を4箇所にしたため移動に時間がとられ、問題点を検討し、方向性を出すまでにいたらなかったグループが多かった。また、テーマが大きすぎて的を絞ることができないグループもあった。この反省から、第3回は、施設からの活動報告と最新情報の提供「尿留置カテーテルの管理」に絞って行った。また、今までの会の経過を把握している参加者を1施設2名程度に制限した。他施設の報告という形での参加は、長野県全体で取り組む意味で効果があがったと思われる。更に、尿留置カテーテルの管理の講義には、アンケートからも具体的に参考になったという意見が多かった。

第4回は、予め各地区1名による代表者会議を開催し運営方法を検討した。最新情報の提供として「肺結核について」、また、施設からも結核事例を報告し全体討議を行ったため、意見が出しやすかった事と、問題点を明確にしている参加者もいて有意義であった。グループワークは日頃の疑問点を解決する場であり、また、悩みなどを共有する場として参加者からの要望が多かった。

4回の懇話会から、具体的にテーマを絞って検討していく事と、グループワークで話し合いを持つことが現在の求められていることではないかと考える。会を重ねる毎に内容が深まってきている。そして、地区の代表施設として輪番で会の運営に携わることや事例の発表をする事でCDCのガイドラインに沿った感染対策が長野県内の各施設でとられていくのではないかと考える。また、このことにより、施設毎にまちまちだった感染患者への対応が統一されつつある。

毎回のアンケートから、感染対策に取り組む上で障害になることではコスト面、病院スタッフへの意識付け、医師の意識改革などがあげられている。施設により抱えている問題は違うが、出来ることから実施していく地道な努力をしていく必要がある。今後は作成したマニュアルが各施設毎に徹底され感染対策がとられていくことが課題である。

4. まとめ

- 1) 実務者懇話会を開催することで、長野県内の感染患者に対する対策が統一されつつある。
- 2) テーマを絞って検討会やグループワークを実施することで参加者の満足度が上がると考える。
- 3) 作成したマニュアルが徹底される事が課題である。
- 4) 地区からの代表者で毎回運営方法の検討会を行い意識を高めていく。

参考文献

- ・感染制御室；院内感染対策の手引き，信州大学医学部附属病院，2001